

2021
秀作

第19回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール

フェアトレードで救う児童労働

東京都・東京都立国際高等学校 2年 菊池 美秋

現在、私は学校にも行けて、好きなことをできている。しかし、世界の子どもすべてがそうであるとは限らない。日本では、ほとんどの子どもが小学校、中学校に通っているが、アフリカやアジアなどの貧しい国では小学校にすら通えず、お金を稼ぐために働いている子どもたちが多くいる。しかし、私たちのお金の使う方向を少し変えることで、世界の子どもたちの生活が徐々に変化するのではないか。消費者のお金の使い方によって世界は大きく変わると考える。

私はマレーシアに住んでいたことがあり、私の家は家族旅行で東南アジアを訪れることが多かった。私たちは大半の東南アジアの国を旅行したが、ほとんどの国で共通して気づいたことは、子どもが働いているということだった。労働賃金が安い東南アジアでは、政府からの補助も上手く成り立っていないところが多く、子どもが働かなければ生きていけない家庭もあった。

マレーシアやインドネシア周辺の地域では、パームヤシのプランテーション農業が盛んである。そこでも働いて学校にも通えていない子どもは多く、農園の中で危険な仕事をしながら親の手伝いをしていた。収穫量が目標に達していないと、減給されたり、給料が支払われなかったりするため、子どもが働かなければ生きていくことができない。現在、パーム油は外国企業から安く買い取られていて、そこで働いている人たちの収入は低く、安定しているものではない。

私の父は、パーム油を使用する会社で働いており、マレーシアへの転勤も父の会社の仕事で理由だった。私は、マレーシアにも働いている子どもたちがいると知った時、申し訳ない気持ちにかられた。彼らが働いているおかげで、父の会社はパーム油を買い取ることができ、商品を製造することができる。父の給料も彼らがいなければ出ないかもしれない。そして、それらによって私の生活は成り立っている。私生活に満足できていることに彼らがかかわっているのだと感じると、私の彼らを救いたいという思いは余計に強くなった。

裕福な先進国の人々からしたら、子どもが働いても生活はあまり変わらないだろうと思うが、彼らからすれば、少しの収入でも大切なのである。マレーシアでの賃金はとても安い。平均収入を比べると、マレーシアは日本の約2分の1だそう¹⁾。そして最低賃金は月約2万8,000円である²⁾。日本ですら到底生活はできないだろう。しかし、最低賃金で働いている人はたくさんおり、彼らの子どもも必死に働いて稼いでいるのだ。

国際労働機関の2017年のデータによると、世界で働いている子どもの数は約1億5,200万人（5から17歳）である³⁾。日本の人口は約1億2,000万人のため、世界の児童労働数は日本の人口よりも多いことになる。そして、働いている子ども1億5,200万人の中の48パーセントが5から11歳、28パーセントが12から14歳、24パーセントが15から17歳であることが分かった⁴⁾。しかし、国際条約において、15歳未満の労働は禁じられている。これらの子どものほとんどはアフリカ人で、その原因は貧困にある。

私は同じ現代を生き抜いていく若者として、このような良い環境で生活できていることに感謝すると同時に、私が彼らを助けるためにできることはないのかと考えた。その結果、フェアトレードを私たちの生活内に取り入れることが貧しい子どもたちを救う一つの手なのではないかと。少しでも、貧しくて困っている子どもたちを助けることに繋がる^{つな}のではないかと。私たちのお金の使い方を少し変えることで、世界の人の生活を支えられるのではないかと。

フェアトレードというのは「発展途上国で作られた作物や製品を適正な価格で継続的に取引することによって、生産者の持続的な生活向上を支える仕組み」である⁵⁾。2015年の時点では、世界の75か国、1,240の組織がフェアトレード商品を取り入れていた。また、それら生産者組織のもとでフェアトレード認証に参加する人たちは、小規模生産者と農園で働く労働者を合わせると、166万人を超えている⁶⁾。国でいうと、一番フェアトレード商品を購入しているのはイギリスで、イギリス人1人当たり年間約3,800円を商品に支払っているそう⁷⁾。このように、世界各国にフェアトレードが普及してきているのが分かる。

フェアトレードは児童労働をなくすことにも繋がる。なぜなら、消費者がフェアトレード商品に対して支払ったお金は、生産者のために使われるからだ。例えば、村の橋を作って交通機関を整備したり、女子に向けてコンピューター教

室を設立し、学ぶ機会を与えたりする。それらは最終的に人々を豊かにしていくことに繋がり、子どもの労働も減少していく。また、フェアトレード日本は児童労働撲滅に向けたプログラムを実施しているそうだ⁸⁾。そのため、フェアトレードを取り入れることで児童労働数も減少していくのである。

日本でも近年、フェアトレードに力を入れる会社が多くなってきており、知名度も上がっている。一般社団法人日本フェアトレード・フォーラムが実施した、2019年のアンケート調査結果によると、「全国の1,108人（15～69歳）を対象とした結果、今回の調査では、フェアトレードの認知率は32.8パーセントと、前回調査時(2015年)より3.5ポイント上昇して初めて3割を超えたほか、フェアトレードという言葉の知名度が10代後半では8割近く（78.4パーセント）に達したことが明らかになった。」また、商品の購入経験の調査では、「フェアトレードを認知している回答者のうち、実際にフェアトレード製品を購入したことがある人の割合は、42.4パーセントだった。」⁹⁾ このように、知名度はとて高くなったが、まだ国民の身近なものとなっているわけではない。では、なぜ日本人はあまりフェアトレード商品を購入しないのか。

おそらく、日本人の思想の中にはまだフェアトレードというものが常に存在していないからだ。例えば、チョコレートを買う時に地球の裏側にいる生産者のことを思って、フェアトレード商品を買おうか悩んだことがあるだろうか。ほとんどの人は、フェアトレード商品を買うか悩む悩まないの前に、そのこと自体を考えることが少ないと思う。その理由として、フェアトレード商品が目につかない場所においてあったり、そもそも店舗においてあることが少なかったりすることがあげられる。そのほかに、商品があったとしても、日本人が「高いから。」という理由で購入をやめてしまう場合が多い。また、食品以外のフェアトレード商品を買う人はあまり多くない。フェアトレード商品の中には衣類や、スポーツボールなどもあるのだが、それを知っている人はほんの一握りだろう。

では、どのようにすれば日本でもフェアトレード商品が購入されるようになるのだろうか。私は企業が日本人のニーズに合わせたフェアトレード商品を開発することがそれらの売れ行きに繋がるのではないかと考える。例えば、その年の流行りのファッションに合わせた肌にも環境にも優しい衣類を、綿産出国

のインドから仕入れたオーガニックコットンで生産したり、ユニークで人々の注目を集めるようなデザインのチョコレートをガーナのカカオで作ったりすることが、フェアトレードの認知度向上にも繋げられ、購入率も高くなっていくのではないかと思います。また、私たち消費者が公正な取引の重要性を理解することができるになれば、フェアトレード商品を購入する人も増えてくるだろう。フェアトレード認証がついている商品は、生産者の労働と同じ値の給料を支払っている。確かに、日本の物価は高く、常に値段が高いものを買うのは難しいが、私たちが安い価格を求め続けていたら、貧しい国の人々の労働と給料は不釣り合いなものであり続けてしまう。そして、そこに暮らす子どもたちの将来は暗いものとなってしまいます。

子どもはこれからの未来を築いていく力を持っている。その力を私たちが台無しにしてはいけない。地球が様々な危機にさらされている今、地球に住む私たちは、私たちの地球を守るために団結しなければならない。そのためには、まず私たちが公平な世を手に入れることが大前提である。消費者も生産者も、同じ人間として平等に生きられる社会を作り上げる必要があるのだ。

貧富の格差、児童労働を撲滅できるかどうかは私たちのお金の使い方にかかっている。貧困を救うお金の使い方はたくさんあるが、フェアトレードは生産者と消費者の両者が幸せになれるものだ。フェアトレード商品を購入することによって、生産者と消費者を繋ぐような懸け橋ができ、人々が平和を手にする日が近づく。現代の私たちが行動を起こせば、これからの未来は変えられる。だから私は、自分のためだけではなく、世界全体、未来のためにお金を使うような人になりたい。

(注)

1) 転職サイト比較 Plus「ビジネスコラム」 マレーシアの平均収入はいくら？日本人から人気のある職種と業界を解説

URL <https://tenshoku-plus.com/malaysia-nenshu/>

転職サイト比較 Plus「転職対策」 2021年最新版 日本の年収の中央値は437万円！中央値と平均は何が違う？

URL <https://tenshoku-plus.com/nensyu-tyuouchi/>

2) 日本貿易振興機構「ビジネス短信」

URL <https://www.jetro.go.jp/biznews/2019/12/77214037f816d87f.html>

- 3) 4) ALLIANCE8.7 「Global Estimates of Child Labour」
URL https://www.ilo.org/wcmsp5/groups/public/@dgreports/@dcomm/documents/publication/wcms_575499.pdf
- 5) Wakachiai Project 「フェアトレードとは？」
URL https://wakachiai.jp/wps/fairtrade/about_fairtrade/
- 6) Fairtrade Japan 「フェアトレード生産国 / 生産者」
URL <https://www.fairtrade-jp.org/producers/country.php>
- 7) 外務省 「英国 基礎データ」
URL <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/uk/data.html#section1>
認定 NPO 法人フェアトレード・ラベル・ジャパン 「フェアトレード海外報告」 2019 年
URL <https://www.jejic.org/wp-content/uploads/2019/08/20190817-2.pdf>
- 8) Fairtrade Japan 「生産者サポート」
URL https://www.fairtrade-jp.org/producers/pd_support.php
- 9) 日本フェアトレード・フォーラム 「『フェアトレード』の認知率 32.8%に上昇」
URL <http://fairtrade-forum-japan.org/wp-content/uploads/2019/10/265e39faa78ff62d9fb9ef5661682779.pdf>

